

西洋建築史第5回

中世2—都市文明の勃興

中島 智章

序.ローマ都市と中世都市

- 帝都ローマ(フォルム・ローマヌム、七つの丘)と属州の植民都市(グリッドプランの軍事都市→^{フロレンティア}Florentia)
異民族の拠点がローマ都市に
メディオラヌム:Mediolanum→ミラノ:Milano、ルテティア・パリシオルム:Lutetia Parisiorum→パリ:Paris
コロニア・アグリッピネンシス:Colonia Agrippinensis→ケルン:Köln、ウインドボナ:Vindobona→ヴィーン:Wien
ロンディニウム:Londinium→ロンドン:London
- 古代末期から中世初期→都市活動が低調になったところもある→ローマ都市の遺産がどの程度生かされたかに差が
1)北イタリア諸都市
→ローマ都市の基本構成が残る→古代市壁が囲う長方形市域を核+闘技場が貴族住宅などへ転用
2)低地地方諸都市(トゥルネ、カンブレ・・・)
→ローマ都市に依拠する部分はその立地のみ
→司教座都市、戦略や水運などによる新たな立地+永久あるいは一時的に消失する都市も
- 「国際様式」としてのゴシック聖堂
各地方都市に「大聖堂」=広い意味でのcathédrale=狭い意味でのcathédrale+参事会聖堂(+バシリカ聖堂)

1.低地地方のゴシック聖堂—トゥルネ司教座聖堂—

- トゥルネのノートル・ダム司教座聖堂
ロマネスク様式→正面ファサード、身廊、側廊、袖廊、5本の棟
身廊壁面は四層構成=下からアーケイド、トリビューン、トリフォニウム、クリアストーリー(高窓)
ゴシック様式→内陣、周歩廊、放射状祭室(1163-1250)
- サント・ウオードリュ参事会聖堂(モンス、1450-1686):ブラバン・ゴシック
サン・ジャック参事会聖堂(リエージュ、16世紀):flamboyant
- サン・ミシェル参事会聖堂(ブリュッセル、13-15世紀):ブラバン・ゴシック→1962年以降は大司教座聖堂
ノートル・ダム・デュ・サブロン聖堂(同、-1550頃):flamboyant
- シント・ピーター参事会聖堂(ルーヴェン、15-16世紀)
シント・ロンバウツ大司教座聖堂(メヘレン、13世紀-、鐘楼→1452-1520、1559年に大司教座設置)
聖母司教座聖堂
オンゼ・リーヴェ・ヴロウウェカテドラル(アントウェルペン、1352頃-1521)→1559年に教区教会堂から司教座聖堂へ
シント・バーフ司教座聖堂(ヘント):鐘楼→ブラバン・ゴシック、身廊→flamboyant

2.ドイツ語圏諸国のゴシック聖堂—ウルム大聖堂—

- ウルム大聖堂(1377):161mの単塔、当初は教区教会堂として建設→19世紀までは塔の建設はされず
- シュテファンズ・ドム(ヴィーン、1304-1446):西側正面のみロマネスク様式
南北の袖廊に接して2本の塔を計画→南側の未完成
- ザンクト・ペーター大司教座聖堂(ケルン、1248-)、シュトラスブルク司教座聖堂(西正面→1277、尖塔→-1439):図面あり
- ザンクト・ローレンツ聖堂とザンクト・ゼバルド聖堂(ニュルンベルク)→それぞれ教区教会堂として建設される

3.イタリア半島諸国のゴシック聖堂ーシエナ大聖堂ー

- ロマネスク以来、基本的平面はバシリカ式を踏襲+柱頭の繊細な彫刻+鐘楼と円形の洗礼堂が独立に建てられる
- サンタ・マリア・ナシェンテ大司教座聖堂(ミラノ、1386-1577-1645)
フィリップ・ドゥ・ボナヴァンチュールとフィリッピーノ・デリ・オルガニ(モデナ)の指導
→イタリアには珍しい「フランスの建築」 148メートル×91メートル
→近世にはファサードに古典主義的ディテールも→19世紀に外装も完成(1805-09)←ナポレオンの命による
- サンタ・マリア・デル・フィオーレ司教座聖堂(フィレンツェ、1296-1436献堂式)
+ロマネスクの洗礼堂+ジョットー設計による高さ82メートルの鐘楼(1334-14世紀末)
→始まりはアルノルフォ・ディ・カンピオ設計によるゴシック建築
←パラッツォ・ヴェッキオ(1299-1314)の設計者といわれる=高さ94メートルの鐘楼
- シエナ大聖堂ファサード:13世紀末にジョヴァンニ・ピサーノにより着工
説教壇(1266-68):ニコラ・ピサーノ作+ロマネスクの鐘楼(1313)+サン・ジョヴァンニ洗礼堂(14世紀)
←14世紀の大拡張計画→「大ファサード」=新大聖堂の正面ファサードとなるはずだった

4.その他の国々のゴシック聖堂ー遍歴する職人たちー

- l'Album de Villard de Honnecourt*→33葉の羊皮紙、13世紀ピカルディー語→平面、立面、断面、透視図+様々な図像
藤本康雄:『ヴィラール・ド・オヌールの画帖』、鹿島研究所出版会、東京、1972。
- 1)ブリテン島諸国
 - 初期イギリス式(第1尖頭式、1189-)→装飾式(第2尖頭式、1307-)→垂直式(第3尖頭式、1377-1485)
 - イーリ大聖堂(1083):英のロマネスク、カンタベリー大聖堂(ウェールズ、1180-):ギョーム・ドゥ・サンスの指導、ソールズベリ大聖堂(1220-65)、ウェストミンスター・アベイ(ロンドン、1245-)、同ヘンリー7世礼拝堂(1503-19)→^{ファン・ヴォールテンダ}fan vaulting
- 2)イベリア半島諸国:バルセロナ司教座聖堂(1298-)、セビーリャ司教座聖堂(1401-1521)
- 3)中央ヨーロッパ諸国:聖ヴィート司教座聖堂(プラハ、内陣→1344-85):^{アラスのマテュー}マテュー・ダラス→ペーター・パーラーの指導

5.ゴシック様式の世俗建築

- 市庁舎や会館...教権、王権に対する都市の自治権の伸張(北伊・低地地方)→総督(Doge)のヴェネツィア共和国
- 1)低地地方
 - ブルッヘ市庁舎(14世紀末):flamboyant、ブリュッセル市庁舎(13-15世紀)、ルーヴェン羅紗会館(14世紀)
 - ルーヴェン市庁舎(15世紀半ば):flamboyant、モンス市庁舎(1458-77-)、イーペル羅紗会館(-1304)
- 2)北イタリア地方
 - メルカンティ広場(ミラノ、^{プロレット・ヌオーヴォ}Broletto Nuovo→13世紀、^{ロジgia・デリ・オジイ}Loggia degli Osii→1316)
^{パラッツォ・ドゥッカレ}Palazzo ducale=総督宮(ヴェネツィア、1340-1438)、カ・ドーロ(ヴェネツィア、1421-40)
^{パラッツォ・デッラ・ラジオーネ}Palazzo della Ragione=裁判所(パドヴァ):黄道12宮図(15世紀フレスコ)
 - パラッツォ・プブブリコ(13世紀末~14世紀中頃)
マンジアの塔:リッポ・メンミ設計、高さ88メートル
カッペッラ・ディ・ピアッツァ(1352)←1348年のペスト大流行
 - 煉瓦積(フランドル積とイギリス積)
石積の技術:野石(rubble)と切石(ashlar)→乱層積みと整層積み、目地の技術
木造小屋組=トラス(キングポスト、クラウン・ポスト、クイーン・ポスト)
ハーフトインバー民家(ハンマー・ビーム、はさみ型)